

1. 評価結果概要表

作成日 2008年9月19日

【評価実施概要】

事業所番号	0373000660		
法人名	医療法人孝仁会		
事業所名	グループホームいわいずみ		
所在地	〒027-0508 岩手県下閉伊郡岩泉町尼額字下坪41-2 (電話)0194-31-1166		
評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号		
訪問調査日	平成20年7月18日	評価確定日	平成20年9月19日

【情報提供票より】(平成20年6月22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 9 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 7.5 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建て	1 階 ~	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	実費負担 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

(4) 利用者の概要(6月22日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名
要介護3	3 名	要介護4	3 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 82.1 歳	最低 66 歳	最高 88 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	済生会岩泉病院
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開所して5年目を迎えるこのホームは、自然豊かな山峡の静かな里にあり、近隣住民との交流も深く、お茶のみや野菜の差し入れの来訪者も多く、ホームでも血圧や体重測定のサービスをする等信頼関係が築かれている。職員は「傾聴・受容」を介護の基本姿勢としながら、利用者が表出する言動や表情に気配りし、一人ひとりの達成感や喜びを笑顔で受け止め、利用者と共に生ずる地域、居住環境づくりに取り組んでいる。なお、全職員がホームまで20分以内に居住し、緊急時等に柔軟に対応ができる体制にある。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では特段改善を求められるような課題はなかったが、終末期ケアに取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で自己評価の項目について「私ならどうするだろうか」と言う課題意識をお互いに持ちあいながら取り組んでいる。外部評価で見出された問題点などは、運営推進会議に報告し意見を頂くとしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、利用者の現状やサービスの内容を報告している。また会議は誕生会や行事に合わせて開催し、多くの家族が参加できるよう工夫をしている。市町村との連携については、毎月開催される地域ケア会議に参加し、意見や情報を得て、連絡や相談などができる関係づくりに努めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	個別的なケアプランの評価経過記録、広報、個別のお便りを定期的に送付して、利用者一人ひとりの暮らしの状況を知らせている。通院や健康状態に変化が生じた場合には、その都度連絡を取り合い、また預かり金については、家族の来訪時に報告をし確認を頂いている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	自治会に加入し、行事等にも参加するほか、広報を地元住民や学校、消防署など関係機関に広く配布し、ホーム運営等についての理解に努めている。また、地元住民による除雪、氷柱落とし奉仕作業、災害時における利用者誘導班を担当するなど、地元住民との協力関係も築いている。

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義について全職員で話し合い、「地域住民と共生しながら、個々のペースに合った役割、生活、ゆとりを持ち、喜びや悲しみを職員と共に共感できるように支援します。」と、利用者が地域で暮らし続けることを支えるための理念として定めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実践化や具現化のため職員アンケートを実施し、これを基に課題を集約して、今年度新たに実践指標、介護基本心得を作成している。また、職員の新採用時の研修、毎月のカンファレンスの際には理念との関連を確認し合うなど、その実現に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、行事等にも参加するほか、ホームが発行する広報を地元住民や学校、消防署など関係機関に広く配布し、ホームの運営等への理解を得ている。また、地元住民による除雪、氷柱落とし奉仕作業、災害時における利用者誘導班を住民が担当するなど、地元住民との協力関係も築いている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価の項目について「私ならどうするだろうか」という課題意識をお互いに持ちながら、評価項目の考え方や意義の理解について話し合い取り組んでいる。外部評価で見出された問題点などは、運営推進会議に報告して意見を頂くとしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者の現状やサービスの内容について報告している。また会議は利用者の誕生会や行事に合わせて開催し、多くの家族が参加できるような工夫をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月開催される地域ケア会議に参加し、意見交換や情報を得るなど、連絡や相談などが出来る関係づくりに努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	個別的なケアプランの評価経過記録や広報、個別のお便りを定期的に送付して、利用者一人ひとりの暮らしの状況を知らせている。通院や健康状態に変化が生じた場合には、その都度連絡を取り合い、また預かり金については、家族の来訪時に報告をし確認を頂いている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が遠方に居住していることから、年1回の家族アンケートを実施し意見等を得ている。またお便りにも、家族の意向や相談など表せる欄を設けるなどしながら、運営に反映させるように努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	結婚などの理由で予期せぬ退職者があり緊急異動があったが、馴染みの管理者や職員による支援ができるように心がけ対応している。また、新しい職員を利用者にきちんと紹介するなど、細やかな支援の工夫をしている。	○	人事異動を含めて組織の運営は、法人の本部で管理されている。利用者へのダメージを防ぐためにも、馴染みの管理者や職員による支援が望まれる。職員の退職などは予測できない場合もあるが、利用者の支援をのためにも一定のルール化を検討するなど今後の対応を期待する。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修においては法人内外を問わず、研修内容等に応じて全職員が参加できるよう計画的な参加体制にある。研修内容は、カンファレンス時に報告を行っている。ホーム内においては、介護リーダーや新人教育担当者を任命し、研修機会の確保や働きながらトレーニングしていく現場内研修にも力を入れている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県、地区ブロックのグループ協会の定例会に参加し、意見交換、情報交換の機会を持っているほか、法人内グループホーム同業者との交換研修を行い、介護技量の向上につなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族にホームの見学をしてもらい、広報やアルバムなど使いながらサービス内容を説明している。また、ケアマネジャーが自宅訪問をし、家族と相談しながら本人が安心し納得した上でサービスを利用出来るよう工夫や配慮がなされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	自然豊かな地域なればこそ、山の幸を活かした地域的な季節料理をはじめ、梅干など昔ながらの保存食づくりなど、利用者と一緒に、学び合い、励まし合いながら生活を楽しんでいる。また、散歩や外食ドライブ、七夕、誕生会などの行事を通して喜怒哀楽を共にしながら、支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的な言動、家族の情報などを基に、本人の思いや意向の把握に努める一方、「認知症のためのケアマネジメントセンター方式」を導入し、活用している。利用者に対する気づきやケアの具体策への視点や観点に変化が見られ、僅かではあるが、個別的なサービスへの転換につながったとしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎日のチェック表と毎月の評価(センター方式の記録など)を基に、担当者が作成した介護計画を全職員で検討するとともに、本人や家族の意見・要望を反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、本人や家族の要望や変化に応じて随時見直しをしているほか、定期的には、毎月の評価を基に3ヶ月毎に、利用者の状態やこれまでの介護計画の中で利用者の暮らしの支えになった点を明らかにしながら、本人、家族の意見なども反映されるよう見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診は家族同伴を原則にしているが、事情がある場合等は、受療同行支援を行っている。また、買い物(鉛やコーヒーなど)、利用者家族の入院見舞い、墓参、故郷訪問など、一人ひとり思いや希望に柔軟に対応し支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は地元の病院であることから、本人、家族の希望する受診となっている。受診は家族同伴を原則としているが、職員が同行支援を行った場合は、家族へは電話やファックスで報告している。また職員は、病院が主催する健康教室へ参加するなどしながら、健康管理に対する学習に努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	住み慣れたところで最期を向かえたいという家族の希望に応え、終末期介護に取り組んでいる。家族も「グループホームで穏やかに過ごせたのは幸せだったと思います。」とグループホームの介護に対して感謝の言葉を述べている。この経験を活かして、重度化、終末期の指針に関するマニュアルの充実を図りたいとしている。	○	終末期、重度化支援は、日常的な家族対話や支援の延長上にあると考えられる。マニュアル作成については、医療機関、家族、そして職員の連携と、継続的な話し合いのもとでの意志確認、またはホーム理念の再検討等、多面的な観点から検討を期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常生活の関わりにおける言葉使いマニュアルの見直しを年2回行い、コミュニケーションのあり方に力を入れている。また、個人情報の取り扱いについては、新採用時の研修のほか年2回、全職員の研修を実施し、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての基本的な一日の過ごし方を作成しているが、その計画にとらわれてはいない。利用者希望によって散歩、買い物などを支援し、状況によっては、歌を歌ったり、歌に合わせて体操をしたり、輪投げなどをして、利用者の状態や思いに配慮しながら支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の会話から、好みの食べ物を聞き取り、献立に取り入れている。また、調理や盛り付け、片付けなども一緒にいき、職員と利用者が同じ食卓で同じものを食べて、楽しく食事ができるよう雰囲気づくりを大切にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後4時(夜間は除く)以降であれば、希望する時間帯に入浴できる。入浴前のバイタルチェック、入浴後の水分補給もチェックされている。入浴の嫌いな利用者に対しても、言葉かけや仲間との入浴を勧めるなどしながら、最低でも週2回の入浴で清潔保持に努めているとしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事への参加、掃除、調理や盛り付け、片付け、昔ながらの保存食をつくるなど、利用者の役割を発揮できる場面をつくっている。また、喜びのある日々を過ごせるように、散歩や外食ドライブ、七夕、誕生会などの行事を通しての楽しみごと、気晴らし支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの中だけで過ごすことのないように、四季折々の変化(春は山菜や花見・夏の海辺散策・秋のもみじ)に応じてドライブを楽しんでいる。また、近隣への散歩、買い物など、利用者の希望に沿って外に出るような支援に努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中居室や玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵はかけていない。外に出たがる利用者に対しては、さりげない声かけや同行による安全配慮などの対応に努めている。現在徘徊者はいないが、不測に備えて近隣住民からの声かけや連絡をいただけるような関係も築いている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年2回実施している。また、地震対策の勉強会は、消防署職員により実施し、署員もホーム内の構造や避難経路等についても確認している。また、地域から誘導班をお願いするなど、地域の方々からの協力を得られるよう働きかけている。	○	地域の方を誘導班にお願いしているが、利用者の高齢化や重度化が進んでおり、なお一層の災害対策に関わる避難誘導がスムーズに出来ることが大切である。ご近所から野菜を頂いたりお茶のみに来たりして日頃より交流を深めていることから、隣近所からの理解と協力を得るなど、多様な協力体制づくりを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録している。この情報を職員が共有し、食べる量や栄養バランス、水分が一日を通じて確保できるよう、利用者の状態や習慣に応じた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には、台所や食堂のソファ、畳敷きの小上がり、テレビ、ラジオコーナーなどが配置されており、利用者がそれぞれ好みに応じて過ごせる空間となっている。天窓からは自然光が差し込み、大枠の窓からは四季折々の変化を楽しむことが出来る。テーブルには花を飾るなど季節感を採り入れて居心地よく暮らせるように工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、鏡台や整理ダンス、位牌や遺影など、使い慣れたものや好みのもが持ち込まれて、居心地の良い居室作りに配慮がなされている。また、居室のドアには、プライベート保護、部屋間違いの予防としての色違い暖簾や名札があり、室内には花や家族写真などを飾るなどして、落ち着いて過ごせるような工夫や配慮がなされている。		